

藤樹祭とは

1 藤樹祭の歴史

昭和40年頃、それまで別々の日に実施されていた体育祭と文化祭が連続2日間にまとめられ、名称も『藤樹祭』に統一されることになりました。しかし、実施日については、創立100周年を機に、体育祭と文化祭を分離した現在のスタイルに戻されています。この『藤樹祭』は、本校の生徒会行事のうち最大のもので、生徒会役員や3年生をリーダーとし、全校が一丸となって完全燃焼を目指します。

9月上旬には、2日間をかけて仮装行列と体育祭が行われます。1日目は、クラスごとにテーマを決め、工夫を凝らして創作した山車や衣装で大洲市内を練り歩く仮装行列です。2日目は、体育祭です。全校生徒が3つのブロックに分かれ、『肱龍』『藤朋』『聖炎』『豫章』という大洲にちなんだ名称から選んで、競技、ダンス、応援の3部門で対抗戦を行います。競技では鼓動を、ダンスでは華やかさを、一丸となった応援では情熱を感じることができます。

文化祭は平成17年度より1学期に実施していましたが、現在では9月下旬に実施しています。展示・各種の発表やバザーなど多彩な内容で、毎年一般公開しており、地域と学校の楽しい交流の場となっています。

2 藤樹先生との関わり

本校は明治34年の創立・開校以来、日本の陽明学の祖である中江藤樹先生の邸址校として教育方針の中に「知行合一」の精神を織り込んでいます。

校内には、昭和14年に藤樹先生の旧宅を模して建てられた「至徳堂」があり、生徒の憩いの場や研修の場となるとともに、外部からも大勢の方が見学に訪れています。

3 市民の皆さんの関心

市民の方々は期待してこの日を待っておられ、仮装行列の路程には数多くの方が出て声援や歓声をかけていただき、仮装の採点も引き受けていただいています。また、体育祭や文化祭には多くの地域の方が来校され、力いっぱいの演技や工夫を凝らした展示、発表、バザーを通して楽しい交流が行われており、地域の特色ある行事として歓迎されています。

ブロック名の由来

豫章(緑色)

昔、伊予の喜多郡に扶桑の大木があったという伝説にちなんでいます。扶桑というのは樟(くす)のことです。「大空にそびえ立つ樟の大樹のように、国家有為の大人物になれ。」という願いを表しています。

聖炎(赤色)

聖炎の聖は、近江聖人の聖、炎は青春の命燃ゆる炎や情熱の炎であり「聖炎こそ若者の真の姿である」とい意味があります。

藤朋(紫色)

中江藤樹先生にちなんだ、生徒会誌「藤棚」より名前を練り、「とうほう」と音読みします。「藤樹先生の『知行合一』の教えをいかんなく発揮していこう。」という意味があります。

肱龍(青色)

肱川流域には古来、竜にちなんだ名称が多数付けられています。「肱川に住む龍が天に昇るがごとき勢いで制覇する」という願いを表しています。



至徳堂



大洲高校マスコットキャラクター
とうじゅくん